

JA全農インターナショナル（株）
ZEN-NOH INTERNATIONAL
CORPORATION

青果物の海外ニーズについて

世界とつなぐ
Connecting with the World

2024年7月 JA全農インターナショナル(株) 青果部



世界とつなぐ
Connecting with the World

会社概要

基本情報

本社所在地	東京都千代田区内神田1-2-10羽衣ビル7階
代 表 者	代表取締役社長 松本 雄造
事 業 部	管理・事業開発部、畜産部、米穀部、青果部
職 員 数	約40名 ※青果部 11名



Fruit & Vegetable

季節の野菜や果物を船便、航空便で世界各地へ輸出しています。

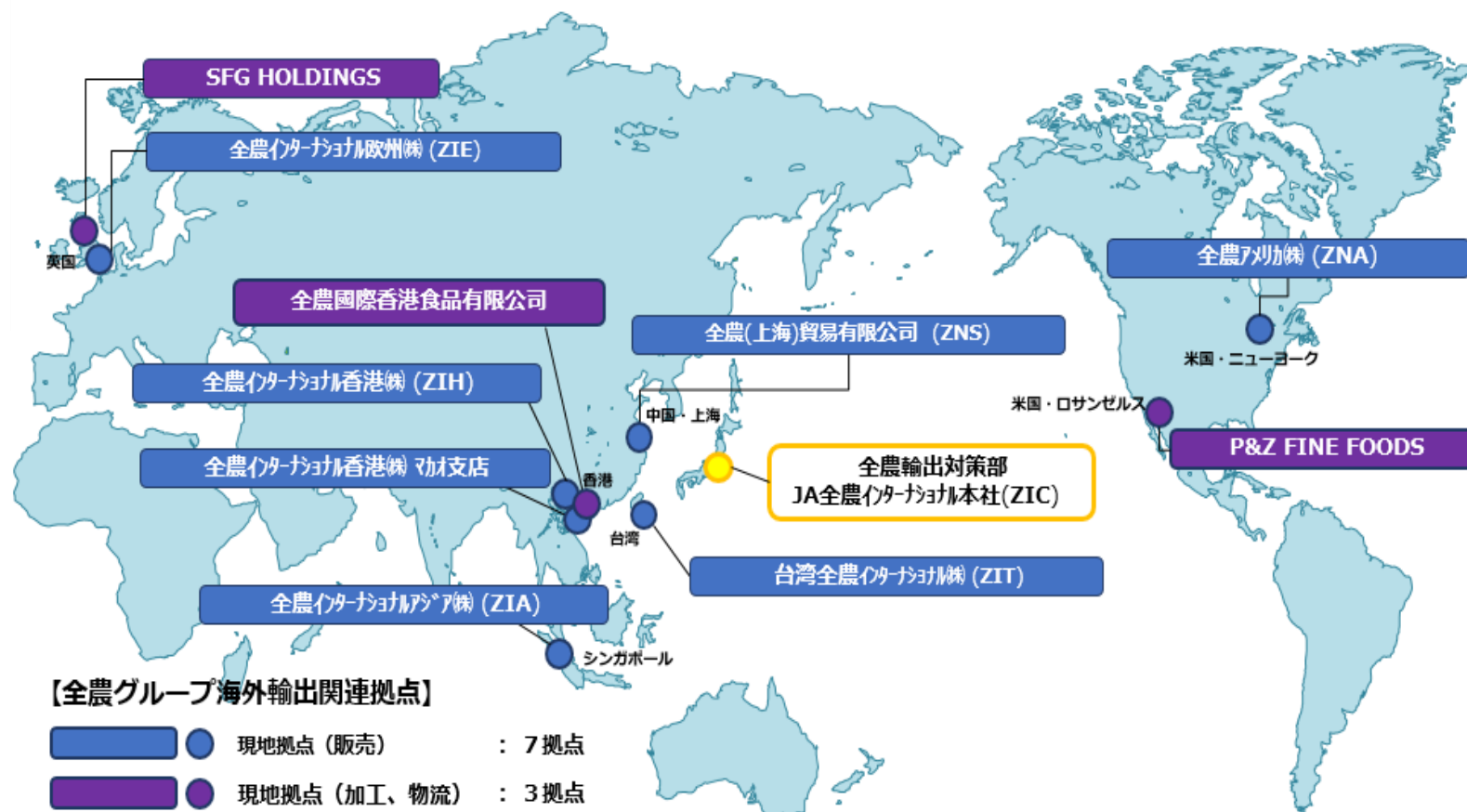
海外事業拠点

平成29年度（2017年度）

会社・拠点名	国・地域	拠点人数
全農 輸出対策部	日本	7
全農アメリカ(株)	米国	3
JA全農インターナショナル(株)	日本	29
全農インターナショナルアジア(株)	シンガポール	4
全農インターナショナル欧州(株)	英国	7
合計		50

令和6年4月1日時点

会社・拠点名	国・地域	拠点人数
全農 輸出対策部	日本	8
全農アメリカ(株)	米国	5
JA全農インターナショナル(株)	日本	46
全農インターナショナルアジア(株)	シンガポール	10
全農インターナショナル欧州(株)	英国	6
全農インターナショナル香港(株)	香港 マカオ	22
台湾全農インターナショナル(株)	台湾	8
全農(上海)貿易有限公司	中国	6
P&Z FINE FOODS LLC	米国	1
合計		112



輸出実績・対象先国

日本全国における主な輸出先国

	国名	輸出額	輸出額対前 年増減率	輸出額 構成比	人口
1	台湾	187.6億円	▲9.3%	42.2%	2,321万人
2	香港	180.5億円	▲4.6%	40.6%	741万人
3	シンガポール	23.3億円	14.6%	5.2%	583万人
4	タイ	20.0億円	▲4.2%	4.5%	7,166万人
5	アメリカ合衆国	14.5億円	34.6%	3.3%	3億 4,542万人
-	その他	18.5億円	▲1.8%	4.2%	-
-	世界	444.4億円	▲4.8%	100%	-

※1. 輸出額は貿易統計を基に農林水産省が作成した資料を参照

※2. 人口はWEBサイトでの推計値を参考とし作成

ハイライト

輸出先国では金額ベースで台湾向けが187.6億円と最も多く、台湾、香港向けが全体の輸出金額の8割以上を占めている。

当社輸出における主な対象国



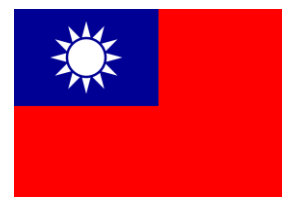
香港



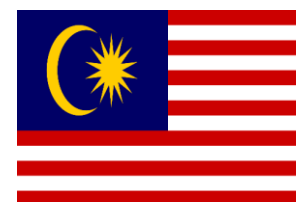
シンガポール



アメリカ



台湾



マレーシア



タイ

輸出実績・対象先国/品目

日本全国における主な対象品目

品目名		2023年	2022年	前年比	構成比
青果物		444億円	467億円	▲4.8%	100.0%
	りんご	167億円	187億円	▲10.7%	37.6%
	ぶどう	52億円	54億円	▲4.1%	11.7%
	いちご	62億円	52億円	+17.6%	14.0%
	もも	26億円	29億円	▲10.0%	5.8%
	甘藷	29億円	28億円	+3.9%	6.5%
	ナガイモ	34億円	27億円	+25.3%	7.6%
	なし	12億円	13億円	▲11.5%	2.7%
	メロン	11億円	13億円	▲13.5%	2.5%
	かんきつ	13億円	13億円	+4.7%	2.9%
	かき	11億円	12億円	▲7.0%	2.5%
	その他	28億円	39億円	▲28.5%	6.2%

※1.輸出額は貿易統計を基に農林水産省が作成した資料を参照

ハイライト

輸出品目では金額ベースでりんごが167億円と最も多く、続いてぶどうの52億円と、りんごとぶどうで全体の輸出金額約半分を占めている。

- ✓ 果実が輸出金額の約8割を占めている
- ✓ そのうち、りんごが4割近い輸出額を占めている
- ✓ 野菜においては甘藷、長いもが主役である
- ✓ 品目別ではいちご（17.6%）、長いも（25.3%）が前年比でけん引している

当社輸出における主な輸出品目

ながいも、ぶどう、いちご、メロン、りんご、甘藷、みかん類、なし、かきなど



海外における日本産青果物へのニーズ・商習慣

品目ごとの香港/台湾におけるニーズの違い

品目	香港	台湾
りんご	小玉を好む傾向にあり 10kg 40/46玉入など小玉発注	大玉を好む傾向にあり 10kg 32玉以上など大玉発注
ぶどう	廉価なパック品を好む	岡山晴王シャインなどの高級ニーズもあり
いちご	形がいびつなG品も可 ※いずれもFlat pack	円錐型のDX規格を好む ※いずれもFlat pack
かんきつ	みかんは小玉を好む ※Mサイズ以下、S2Sが要望	みかんは小玉を好む ※Mサイズ以下、S2Sが要望
もも	選果場まで指定するマニアックな市場	規制のため、選果可能な選果場で可
かんしょ	S2Sサイズを好む	日本産の流通量は少ない

商習慣おけるニーズの違い

項目	香港	台湾
値決め	直前の市場相場と比較購買	既に供給業者が決まっている
出荷品目	混載で複数品目を少量ずつ出荷	単一品目を大ロットで出荷
発注	唐突な場合も多い	比較的計画に基づく

海外における日本産青果物へのニーズ・商習慣

アジアの青果物輸出市場におけるディープな実態

香港：油麻地果欄



夜には…



昼間は穏やかな地域の八百屋
※日本の量販店よりも安い商品もあり…

0:00頃行くと、様相を変えている。
小売業者から卸業者の業態へと姿を変える。

【模倣品の流通】



「あまおう」も、「おまうあ」で販売…

アジアには不透明な商物流が存在…

- ①日本での店頭売価よりも安く販売されていることも多い
- ②日本国産青果物の模倣品も流通する現状
- ③経済規模に比例しない貿易統計

※香港人口700万人、シンガ600万人だが貿易統計上は10倍近い差がある。

輸出拡大に向けて…抱える課題

1.産地サイド

(1) 物流の柔軟性

輸出の主要な港・空港へは昼間に納品する必要があるが、青果物の通常の国内市場への配送は夜間が中心であり、昼間の配送手配が困難なケースが多く見受けられる。

また、地方港・空港の活用にも取り組んでいるが、コンテナ船や航空便の寄港数（頻度）が少なく、代替便も少ないなど課題が多く、積極的な活用が難しい。

(2) 値決め

生産者の所得向上のため、少しでも高く売る努力を行っているが、国内向けに市場に販売されたものの一部が輸出され、海外で競合するケースも多く、商談が成約に至らないことも多い。

(3) 規制への対応

タイなどのように園地登録が必要条件となる国や、台湾のように残留農薬規制が非常に厳しい国もあり、これらの規制に対応出来ない、あるいは対応の方法がわからないという状況も散見される。

輸出拡大に向けて…抱える課題

2.販売サイド

(1) 翌年の確約がない取引先も少なくない

価格条件のみで成約でき、順調に販売できたとしても、その取引先は「安いから」購入しただけというケースもある。

こうした取引先とは継続的な取引が確約されているわけではなく、常に入札方式となる。

(2) 規格指定が多い

果実は、取引先から玉数指定・等階級指定を受けるケースも多く、産地が対応に苦勞することも多い。

(3) 品質劣化が避けられない

現地到着から検疫まで1～2週間の滞留時間がかかることあり、着荷後に品質劣化が発生することがある。

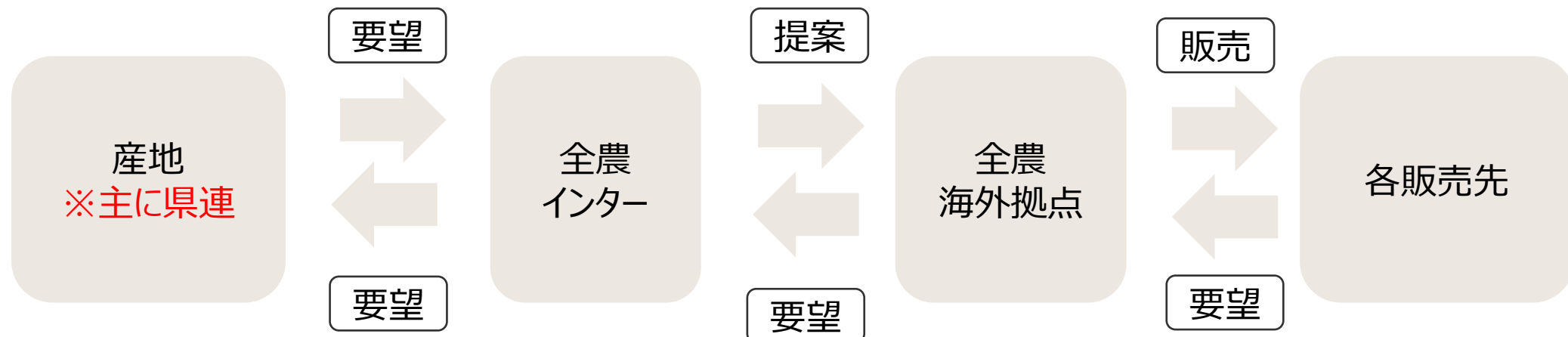
輸出事業という性質上、国内販売に比べ輸送・保管時間の長期化が避けられないため、産地出荷時の品質、鮮度管理がより重要になる。

当社の主な産直の取り組み

1.産地連携の取り組み

(主な産地-品目連携の例：一部紹介)

- 4月～5月：JA熊本経済連 春メロン（香港・シンガポール・米国）
- 5月～6月：JA和歌山県農 梅（香港・シンガポール）
- 7月～8月：JA全農やまなし 桃・ぶどう（香港・シンガポール）
- 8月～9月：JA全農とっとり 二十世紀梨（香港・台湾）
- 8月～9月：JA全農おかやま 桃・ぶどう（今後取り組み予定）
- 10月～12月：JA全農やまがた りんご（台湾）
- 11月～2月：JA全農あきた りんご（香港）
- 11月～2月：JA和歌山県農 みかん（香港）
- 12月～1月：JA静岡経済連 いちご（米国）
- 12月～1月：JA全農おおいた みかん（香港・シンガポール）
- 1月～2月：JA全農みやぎ いちご（台湾）



ご清聴ありがとうございました。
共に協力し、輸出拡大していきましょう！

